

ヤマドリゼンマイ

Osmunda cinnamomea L. subsp. *asiatica* (Fernald) Fraser-Jenk.

ゼンマイ科 Osmundaceae

1. 利用可能部位

葉柄と中肋 (A、B) 根 :

綿毛 (C) :

2. 組織形態 :

根茎は斜上し (F)、長さ 0.8~1.2m ほどの長楕円形の葉を叢生する (C)。葉柄は硬く、断面は葉の上面がやや潰れた円~楕円形 (D)。表皮は平滑で、やや厚いくチクラがある (E)。皮層外層は 8 細胞層程度の径が小さい厚壁柔細胞からなり、内層に向かい順次径が大きくなり、維管束近く及び葉柄中央部は薄壁で径の大きい柔細胞からなる (D,E)。維管束は 1 本で断面盃型の両端が内側に巻き込んだ形でゼンマイと同じである。

根茎は多数の根を密生する (F)。太い根は直径 1mm 強で多数の側根をつける。横断面は円~楕円形で、中央に 1 本の維管束を持つ (G)。表皮は皮層最外層の細胞より大きく、薄壁、古い根では容易に破損する (G)。皮層外層の細胞は厚壁柔細胞で、内層に向かい薄壁となる。内皮に包まれて 1 本の維管束がある。一次維管束はレンズ型で両端に原生木部がある二原型 (G,H)。後生木部の仮道管は中央に向かって順次太くなり、中央付近の仮道管の直径は 60 μ m 程度。一次篩部はレンズ型の一次木部の両面にあり、薄壁の細胞からなる (H)。

3. 利用例

ゼンマイ同様の葉柄、綿毛の利用が考えられるが利用例は知られていない。

4. 遺跡出土遺物 : 知られていない

図説明

A: ヤマドリゼンマイ群落の芽吹き。B: 葉が完全に展開したヤマドリゼンマイ。葉身に比べ葉柄は短い。C: 芽吹き。ゼンマイ同様、綿毛をかぶる。D: 葉柄の横断面。上面が平らな円形だが、写真の試料では乾燥のため潰れている。ゼンマイ同様、盃型の維管束が 1 本。E: 葉柄横断面の拡大。表皮にはやや厚いくチクラがある。木部は比較的細い大きさの揃った仮道管が多数連なる。F: ヤマドリゼンマイの根茎。多数の根を密生する。G & H: 太い根の断面及びその拡大。表皮は皮層外層の細胞より径は大きく細胞壁は薄く、容易に破損する。皮層外層は 5, 6 細胞層程の径の小さい厚壁柔細胞からなる。中央に内皮に包まれた維管束が 1 本ある。一次木部はレンズ型、両側に原生木部のある二原型。一次篩部はレンズ面の上下に有、薄壁の細胞からなる。



A



B



C

